

経済統計学会第36回全国総会

経済統計学会第36回全国総会は、1992年7月27日（月）から29日（水）の3日間にわたり、大東文化大学（東京都板橋区）において開催された。人口問題研究所からは、廣嶋清志および渡邊吉利の両技官が出席した。報告は経済統計の広範囲なテーマにわたり、多くの研究成果の披露と活発な議論の展開がなされた。報告の中で、人口統計関連テーマの小特集が生まれ、廣嶋清志会員および福島利夫（大阪経済法科大学）会員が座長を務めた。人口統計特集では、坂寄俊雄会員による市区町村別人口の年齢構造変化の検討および藤岡光夫（島根大学）会員による人口移動の実態調査および事例の検討結果が報告され、また、渡邊吉利会員は日本人女性のライフコースに関する検討結果の報告を行った。

（渡邊吉利記）

第2回日本家族社会学会大会・第25回家族社会学会セミナー

標記大会およびセミナーは1992年9月6日（日）～8日（火）、北海道大学学術交流会館において開催された。日本家族社会学会は家族社会学セミナーを基盤として1991年7月21日設立された。学会発足にともない会員の選挙により理事が選出され、初代会長に森岡清美会員（成城大学）が総会において選出された。

第1日午後と第3日午前に自由報告8題、第2日午前と第3日午前にテーマセッション2つ、第2日午後にシンポジウムの報告・討論がそれぞれ行われた。本研究所からは阿藤誠、小島宏、西岡八郎（代読）、廣嶋清志、渡邊吉利が参加し発表を行った。それぞれの論題と報告者等は以下の通り。

自由報告 I

司会者 布施 晶子

1. 性役割と自尊感情に関する一研究
——主に身体の性役割との関連において——……………大山 治彦（大阪市立大学）
2. 家族変動の尺度として個人化を考える
——新聞紙上に見る「私」の主張——……………中久喜町子（日本大学）
3. 最近の親子同居の動向……………廣嶋 清志（厚生省人口問題研究所）
4. 家族の就寝形態に関する研究……………大久保孝治（放送大学）
5. 図像にみる戦後日本の近代家族……………酒井はるみ（茨城大学）
6. 社会への二つの回路——女性の視点から——……………天木志保美（同志社大学）

テーマ・セッション I

『家族関係と出生行動——途上諸国との比較』

司会者 小島 宏

1. 中国の出生力変化と家族——吉林省農村の場合——……………津谷 典子（日本大学）
2. タイにおける結婚行動と出生行動……………安蔵 伸治（明治大学）
3. マレーシアにみる女性の役割と出生行動……………黒須 里美（国際日本文化研究センター）
ジュアン・タン（ワシントン大学）
4. 家族形成と出生行動——メキシコと沖縄——……………西岡 八郎（厚生省人口問題研究所）
5. アフリカにおける夫婦の相対的地位と出生行動……………小島 宏（厚生省人口問題研究所）

討論者 阿藤 誠

シンポジウム

『アジアの家族・親族関係』

司会者 宮城 宏・松田(熊谷)苑子

1. オセアニアからみた親族……………清水 昭俊（国立民族学博物館）
2. 日本と中国における家・同族制度と地域社会変動の比較考察……………中村 則弘（帯広畜産大学）
3. 女性の「社会進出」の比較——東アジアの場合——……………瀬地山 角（東京大学）